
ゴローの罪状

kakiage

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゴローの罪状

【コード】

N3789W

【作者名】

kakiaage

【あらすじ】

召喚した救世主が犯罪者だった死にたい…ってか殺されそう

第一話 異界への脱獄

松明により照らされる神殿内部にてその儀式は行われていた。

神殿中央の石畳には幾何学模様の魔法陣が描かれており、それを取り囲むようにして幾人も純白のローブを被った者たちが詠唱を唱えている。

彼らの身体はそれぞれ淡く光を発していたが、その中でも一際神殿内部を照らしていたのは十代後半〜二十代ほどの若い女性であった。彼女こそ王国一の実力を誇る宮廷魔術師の称号を最年少で与えられた異才の持ち主である。

「フレンド様、召喚術の詠唱を完了しました。後は魔力を注ぎ込み彼の者をこちらに呼び寄せただけかと。」

「わかりました。魔術師の方々は待機している騎士の方々と交代してください。騎士の方々は陣の外側で待機を。」

彼女の言葉に、先程まで詠唱を唱えていた魔術師は待機していた騎士と入れ替わるように壁際へと下がっていった。中には疲労により途中で崩れ落ちる者もあり、仲間に支えられながらその場を後にする。

「これより“異人”の召喚を行います。各自不確定要素の対象・事象への対応を行ってください。」

魔法陣の周囲を囲む何人もがその言葉に息をのみ、改めて真剣な表情となる。

それもそのはず、多大な恩恵を与えてくれる可能性を秘めた召喚術はその効力に見合った危険性も孕んでいるからである。

召喚術とは異界との門を開き、こちらが定めた一定の基準を満たした対象をこの世界に引きずり込む秘術である。

しかし、必ずしも対象のみがこちら側に呼び寄せられるとは限らない。

対象を引きずり込む過程であちらのものが召喚されてしまうことがあるのだ。

召喚術について記された文献によると、時にこちらの世界の竜に匹敵するものが誤って召喚され、甚大な被害を及ぼしたと記録されている。

幸いにも同時に召喚された対象の“異人”の協力もありことなきを得たそうだが、それ以来異界からの召喚に対してはこのように厳重な警戒をもって対処されている。

「それでは門を開きます。」

魔力が注ぎ込まれた魔法陣が光を放つとともに影のように黒く塗りつぶされていった。神殿内を揺るがすほどの地鳴りのような音がこだまして、なにかが魔法陣から浮き上がってきた。

黒い泥がまとわりつくように浮き上がった何かにまとわりついていったが、それはすぐにボロボロとはがれていき人の姿を露わにしていた。そうそれはまさしく彼が召喚しようとした“異人”であった。

だが、彼らが待ち望んでいた異人の姿が露わになっていくうちに、最初は喜んでいた王国の者たちも次第にその顔から笑顔が消え、驚き戸惑った表情へと変わっていった。

召喚された異人に最も近くにいるフレンダも例外ではない。彼女は召喚されたばかりの彼にこう問いた。――

「あなたは誰？」

とある事情により、彼女を見上げるような態勢にいる彼は彼女の眼を見据えるように告げた。

「囚人番号11056、ゴロー・イトウ。見ての通りありふれた死刑囚さ。」

全身の身体を奪うように縛られた拘束具。

錨のような重りがついた枷がはめられた四肢。

そのどれもが彼の言葉の信憑性を裏付けていた。

史上最悪の大量殺人犯、ゴロー・イトウは何の因果か異世界へと脱獄を果たしていた。

第二話

世界中を騒がせた世紀の大量殺人犯ゴトー・イトウ。またの名を「魔人」道徳倫理が一切通じない超人的な怪物として名付けられた不名誉な名。

確認されるだけでも彼による殺害者数は三桁にも及び、彼は実に十数力国の国で殺人を行った。無論国際指名手配とされたのだが、当時二十歳にも達していないその少年を捕縛するまでに実に4年の月日を要した。

彼が殺害した者たちには共通点というものがほとんどなく、下は生後間もない赤子から寝たきりの老人に至るまで老若男女あらゆる人を手に掛けてきた。そのため犯行動機も不明で快樂殺人者という線で見られている。また凶器もその時々でさまざまであった。刺殺が半数を占めているものの、撲殺、毒殺、銃殺、絞殺といった殺しさえすればどのような手段も選ばなかった。当然何度か彼を捕縛できるチャンスがあったのだが、そのたびに数名の警官、周辺にいた住民が犠牲になった。

彼の最初の犠牲者となったのは実の両親と姉だったそうだ。

当時、あまりの殺害者数に模倣犯がいたのではないのかと疑われたことがあったが、彼のような無差別な大量虐殺を行うことなど到底不可能に近かった。

警官殺しもやっていたこともあり、捕縛ではなく射殺も十分に視野に入れた作戦が行われていた。

正式には捕縛とされているが、実際は田舎の警察署に出頭していたようだ。

彼は喪服姿で両手を差し出しこう言ったそうだ。

「やっと終わった」と・・・

「長かったな。やっと終わったよ姉ちゃん。」

「仕留めるのに4年もかかったよ。」

「最後は泣きべそかきながら逃げまどいやがったよ。」

「死ぬことになれたはずの奴が、命をおもちゃ程度に思っている奴が命乞いなんかしやがったよ。」

「ほんと人様のこと言えないほど、殺してきちゃたけどあの時は笑いが止まらなかったな」

「自業自得かもしれないが世界中に恨まれた俺には生きてる価値がないのは当然だな。」

「むしろ死こそが皆に平穏を与えるなんてお笑い草ってやつだ。」

壁のシミを見つめながらそんなことを言っていたときに俺はあちら側に引きずり込まれた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3789w/>

ゴローの罪状

2011年10月9日16時00分発行